

外国につながる子どもの学習支援ボランティア研修会 実施報告（公開版）

区分：報告

掲載日：2018年4月27日

内容：平成29年度外国につながる子どもの学習支援ボランティア研修会を開催しました。

開催報告 平成29年度外国につながる子どもの学習支援ボランティア研修会 ～子どもの学びによりそう学習支援～

<概要>

- 目標：学習支援教室の活動の中で感じる悩みや課題を整理し、地域における子どもの支援のあり方を共に考える。
- 日時：2018年3月1日（木）、8日（木）、15日（木）
10:00-12:00 全3回
- 場所：横浜国際協力センター6F 共用会議室
- 対象：横浜市内及びその近郊で外国につながる子どもの学習支援をしている方
- 参加者：第1回 42名、第2回 40名、第3回 34名（延べ116名）
- 講師他：第1回：講師 石井恵理子先生（東京女子大学教授）、
第2回：コーディネーター 唐木澤みどり（YOKE）
事例紹介 飯塚紀子さん（キララの教室）、辻雅代さん（地球っ子教室）
情報提供 土屋隆史先生（横浜市教育委員会事務局国際教育課指導主事）
藤井美香（YOKE）
第3回：講師 齋藤ひろみ先生（東京学芸大学教授）



研修会の様子
たくさんの方が参加して
くださいました！

第1回研修会 「地域で支える子どもの育ち・学び」

講師：石井恵理子先生（東京女子大学教授）

地域における子どもの支援について、
成長・発達を支える／教科学習を支える／子どもの生活を支える
という観点から学びました。
また、横浜で活動するボランティア同士が知り合う時間となりました。



講義では、地域の教室は学校と同じではないこと、
より子どもによりそった支援ができること、
教えるのではなく「ことばを育む」ということ、
子どものやる気や本気のタネをさがすこと、
また親を支える大切さなどを伝えていただき、
参加者には活動を見つめなおす機会となりました。

参加者は横浜市内各地域で活動の場を持つ方が多く、
限られた時間ながら活発な意見交換がありました。



グループで自己紹介の時間には、
お互いの向き合っている子ども、
支援者、学ぶ場について共有しました。

第2回研修会 「みんなどうしてる? ～横浜での学習支援例をもとに～」

コーディネーター：唐木澤みどり（YOKE）

横浜市内2つの学習支援教室の活動事例紹介と、教育委員会事務局及びYOKEから情報提供があり、参加者で共有しました。
グループ活動では、お互いの「みんなどうしてる?」（工夫と悩み）を伝え合い、アイデアを出し合い、最後に全体で共有しました。



- * 横浜市内の学習支援教室の事例紹介：
飯塚紀子さん（キララの教室）
辻雅代さん（地球っ子教室）

学校と関わっていくための具体的な方法や、子どもの様子をボランティアが共有する仕組みなど、教室独自の工夫を聞きました。

- * 横浜市における支援についての情報提供：
土屋隆史先生
（横浜市教育委員会事務局指導主事）

外国につながる児童生徒への支援制度の説明とともに、「子どもにとっては、地域の学習支援教室など学校以外に通う場所があることはとても意義がある」と、ボランティアにとって励みになる言葉をいただきました。

- * グループ活動「みんなどうしてる?」

研修会参加者への事前アンケートや事例紹介をもとに4つのテーマを設定しました。

1. 子ども「子どものやる気、意欲を引き出したい」
2. 保護者「『子どもを支える親』を支えたい」
3. 学校「学校とつながりたい」
4. ボランティア「よりよい学習支援をしたい」

参加者は各自が話し合いたいテーマを選び、小グループで「みんなどうしてる?」を話し合い、「きちんと勉強する時間と楽しむ時間のメリハリをつける」など、具体的なアイデアに結びつけました。



- * YOKEからの情報提供：
藤井美香（YOKE）

YOKE 情報・相談コーナーや市内の国際交流ラウンジ等をご紹介します。みなさまもぜひご活用ください。

第3回研修会 「子どもの学びによりそう学習支援～これからの活動に向けて～」

講師：齋藤ひろみ先生（東京学芸大学教授）

子どもたちの学びによりそうということについて、
学びの連続性を保障／社会化・認識の深化を支援／
ライフコース+社会を形成する市民という視点
という多角的な視点からお話がありました。
また、支援者自身の「言語学習」に関する信念を問い直す活動や、
子どもたちの作文例から支援を考える活動を行いました。



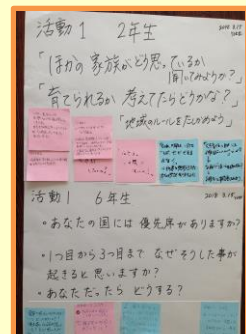
* ペア・グループ活動：「言語学習」に関する信念を問い直す

参加者が「言語学習」に関するピリーフ調査紙に
回答し、その理由を他者とシェアすることを通して、
自身の言語学習についてのピリーフに気づいたり、
異なる考え方を知る機会となりました。



* グループ活動：子どもたちの作文から支援を考える

具体的な子どもたちの作文例をもとに
「社会とかかわる力を高める支援」と
「思考のためのことばの力を高める支援」
について参加者各自で考え、
グループで検討し、発表しました。



** 参加者の声（各回のアンケートより一部抜粋） **

- 地域の日本語教室でボランティアを始めてから2年が経過しました。自身の活動がマンネリ化しているなという実感があったので、今回、自身の活動を振り返るいい機会になりました。
- 子どもたちの個性や環境には多様性があり、各々の子どもに合わせて手探りで学習支援をしていました。ヒントをたくさん頂き、出来るところから活用していきたいです。
- 同じような現場の悩みを交換できたのでよかったです。
- 成長の過程をふまえた支援はとても大切であると再確認したことで、目の前の子どもにより丁寧に対応したいと思いました。